

西日本インカレ（合同研究会）2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）キュウシュウサンギョウダイガク	フリガナ）ケイエイガクブ	フリガナ）マキゼミナールサン
九州産業大学	経営学部	真木ゼミナールⅢ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）チーム ゲンキツクシ	フリガナ）イシハラ ハルカ	5人	無
Team げんきづくし	石原 遥		

研究テーマ（発表タイトル）

大学生の大学生による大学生のための情報処理能力を養うノート

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

近年、書店には受験生や社会人のためのノートやメモの取り方に関する書籍が並ぶようになった。しかし、それらの多くは大学受験までのノートの取り方や社会人になってからのメモの書き方に関するものであり、大学生のためのノートについて書かれているものはほとんどない。それに加えて、私達のグループが行った大学生に向けたパイロット調査の「今までにノートの取り方を習ったことがありますか」と「ノートの取り方が分かりますか」という2つの質問では、半数以上が「いいえ」と答えた。

そこで我々は、「ノートの取り方が分からないまま進学している大学生が多いのではないか」という問題意識から、大学生の講義でのノートの取り方について分析した。そして、その分析結果と各種調査に基づき、ただ板書をするだけでなく、自分自身で考えながら書くことのできるノートを作成することを目的として研究した。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

2.1 ノートを取ることの重要性

ノートを取ることは“覚える”ことについて非常に大きな意味を持っている。重要なことは「脳は反復を行うことで覚える対象物を完全に記憶する」ということである。見て覚える場合、脳は視覚情報を処理する。この場合、視覚情報のみを処理するため脳の働きは一つの覚える機関だけを使うことになり、あまり活発ではない。さらに、視覚情報処理の場合は見たものを覚える対象物と認知しづらいため、「反復」が行えず短期記憶となり長時間の記憶はできない。

これに対して書いて覚える場合は、目からの視覚情報の処理と、筆記具による感覚情報の処理を行う。また、同時にノートへ書くための位置を計算するため、脳の様々な機関が働くことになる。この働く機関が増えることにより、脳は覚える対象物に対して、反復を経て長期的な記憶になる。つまり、パソコン等で「タイピング」することと手書きでノートに「文字を書く」ことは、使われる脳の働きが大きく異なるといえる。

2.2 ノートの取り方に対する意識の歴史的背景

大学進学率が低い時代に学生として学んでいた大学教員にノートの取り方についてインタビューしたところ、当時の講義形式は、板書を書き写すだけの一方通行的な教育であり、教員も学生も「ノートを工夫して取る」ことに対しての意識があまり高くなかったことが分かった。一方で、現在は大学進学率の上昇により様々な人が大学に通えるようになったため、必ずしもノートの取り方を含む学習の仕方について自ら考えた経験のない人々も進学できるようになった。つまり、大学の教員側も学生側も、ノートの取り方についての意識や理解が低いのである。

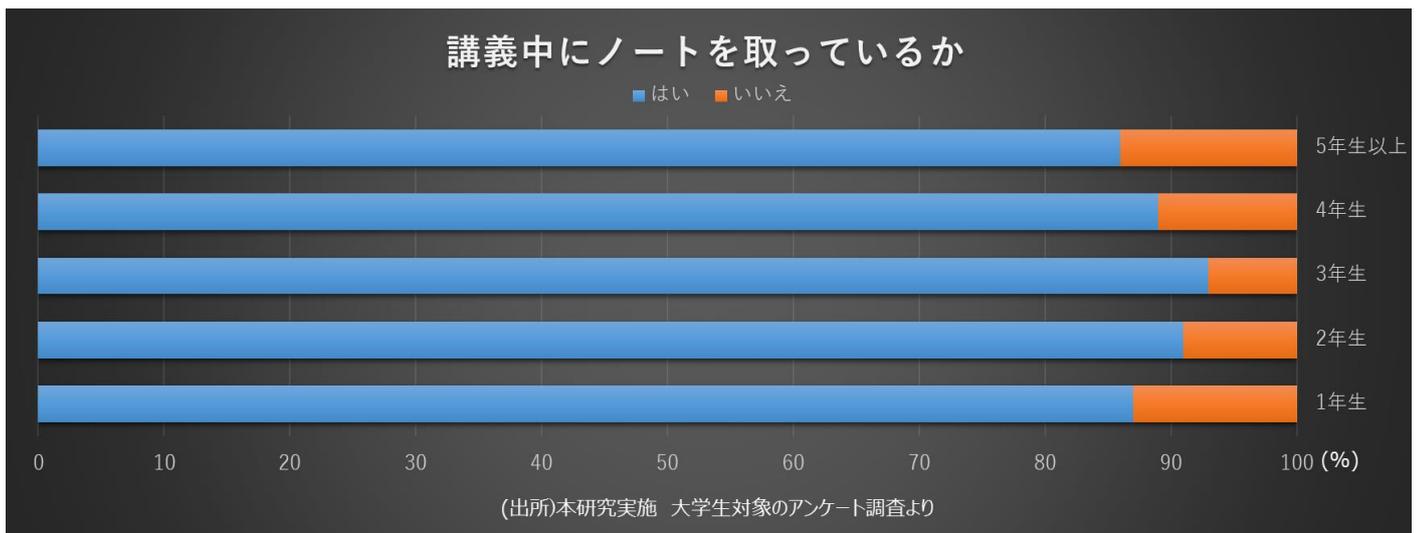
3. 研究テーマの課題

以上のことから、大学教員の「ノートを取る工夫に対しての意識の低さ」と、大学生の「ノートの取り方が分からない」という点が掛け合わされていることが分かるが、そのような現状にも関わらず大学生のためのノートに関する研究があまり進められていない。そのため、受験対策のノートは多く出版されているが、大学の講義のノート作成に対しての研究や出版は限られている。

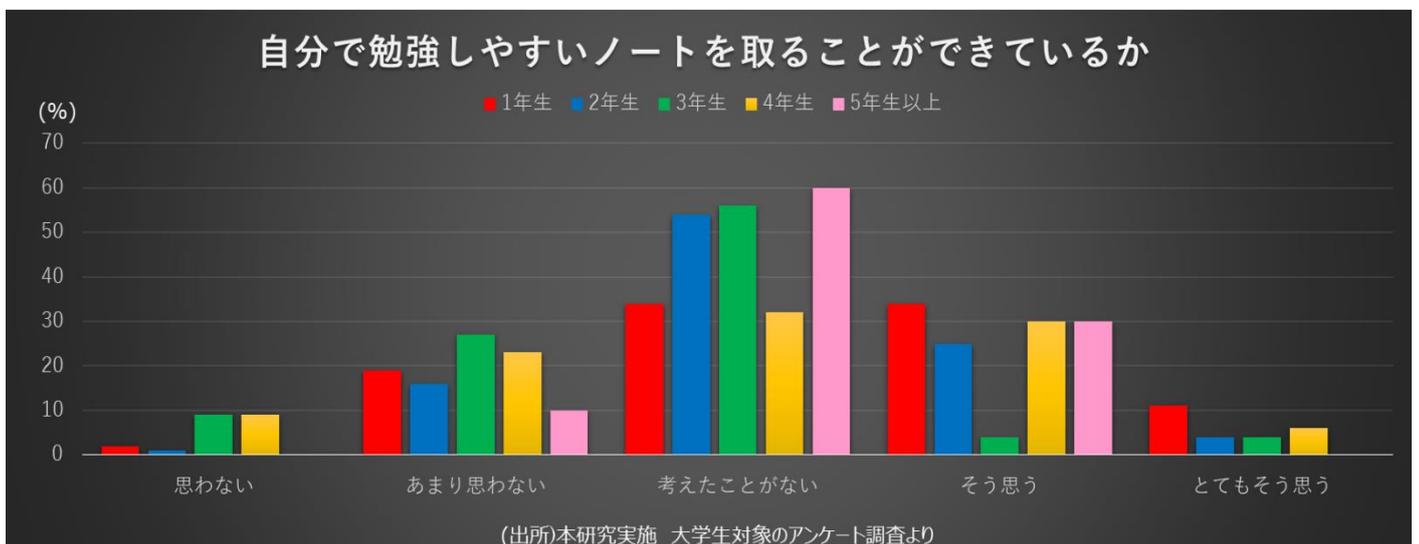
4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

今回実施したアンケート調査より、講義中にノートを取っている学生が多いことが分かった(図表 4-1)。しかし、今までにノートの取り方を習った学生は少なく、自分で勉強しやすいノートを取ることができているかという質問では、多くの学生が自分のノートの取り方に関心がないと答えた(図表 4-2)。

図表 4-1



図表 4-2



このような結果となったのは、大学生のノートの取り方に関する研究・書籍が限られていることと、高校までにノートの取り方について指導要領に含まれていないことが原因の一つと考える。

そこで、上記のような課題を解決するために、本研究では情報処理能力を養うノートを作成することを提案する。ノートの取り方が分からないと思っている学生が、ただ板書を写すのではなく、自分で情報を取捨選択しながら講義を理解できるようなノートのサンプルを考案した。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

本研究ではインタビューとアンケート、サンプル作成と主に3つの調査を行った。はじめに、成績が良い大学生はどのようにノートを取っているのかを調査するために、九州の大学に通っている学生にインタビューを行った。また、大学教員と高校教諭にもインタビューを行い、ノートに関する実体験やノートを取ることは生徒や学生にとって重要なものかどうか尋ねた。その後、これまでのインタビュー内容を踏まえて大学生の講義ノートに対する意識調査のためにアンケートを実施した。以上の調査結果を基に、情報処理能力を養うノートのサンプル作成とその効果についての分析を進めた。

6. 結果や今後の取り組み

今回の研究を通じて、ノートの取り方が分からないまま進学している学生やノートを取っていても自分で勉強しやすいノートを取っていない学生が多いことが分かり、専門分野の科目に特化したノートのサンプルを作成することができた。しかし、今回の研究の限界として、ノートを取ることの重要性を伝えて意識改革を行う活動と、演習科目や基礎教育科目に特化したノートを作成することができなかつたため、今回の研究内容を踏まえた上で、以上のような研究に今後も取り組んでいきたいと考えている。

7. 参考文献

斉藤善門（1995）『受講ノートの録り方－大学・短大で学ぶ人のために』蒼丘書林

高橋政史（2014）『頭がいい人はなぜ方眼ノートを使うのか？』かんき出版

東大家庭教師友の会（2014）『現役東大生が実践している「勉強法」のきほん』株式会社翔泳社

文部科学省(2012)『情報活用能力について』pp. 2～3

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までを渡します。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。